

たはら 歴史探訪 クラブ 其の46

TAHARA
History Inquiry
Club

新しい
地域の歴史への取り組み

歴史探訪クラブも、はや46回目を迎えました。時折、市民の皆さんからご意見を寄せられることがありますが、その中でも、「こんなことがあったとは知らなかった」という意見が圧倒的に多く聞かれます。そこにはそれぞれの歴史に対して、自分が生まれる前の歴史、自分が生きてきた時代の歴史と、人さまさまざまな捉え方があります。あまりにも身近すぎず、気づかなかつたのではないのでしょうか。



各地区で発行された地域史の本。左上から『田原町吉胡郷土史』『大草史』『野田史』

田原市に関連する地域の歴史の本は、『渥美郡史』（1923）に始まり、『田原町史』（1969〜80）、『赤羽根町史』（1968）が良く知られています。また、各地区のものとして、『田原史』（1935）、『田原町吉胡郷土史』（1962）、『浦区郷土史』（1957）、『大草史』（1974）、『野田史』（2002）が発刊されています。特に後者の地域史の発刊作業は、学者に頼らず地域の方々が力を合わせた労作ばかりで、地域の歴史ばかりでなく、田原市の歴史を語る上でも貴重な資料となっています。

また近年、地域の歴史への取り組みが盛んです。浦区自治会、波瀬区自治会でも、地域史の編さんが開始されました。

10月には、浦区ふれあいセンターで浦区が収集した写真の展覧会が行なわれ、大好評でした。これらの写

真は、昭和40〜50年代を中心としたもので、懐かしい風景は地区の移り変わりがわかる貴重なものです。モノクロの画面に写った人たちの姿は、力強く、やさしく、笑顔に溢れていました。写真に写るものはすべて、「身近な」ものばかりです。それゆえ見学した人たちは、懐かしさばかりでなく、地域の人たちが懸命に生きて築き上げた地域の存在を誇りに思うのでしょうか。見学した私も大きな感動を覚えました。

波瀬区でも、月に一度関係者が集

まり、資料を収集するなど着実に準備を進めています。

両地区に共通しているのは、先人たちが築き上げた身近な歴史を風化しないうちに記録しようとする姿勢です。これまで地域史は、原始から現在にいたる歴史の流れを調べることにありましたが、両地区は「身近」と「地域性」というキーワードで地域史をまとめようとしています。今後、両地区の新しい感性でまとめられた本の発行が期待されます。また、この事業を通じて集められた資料が



地域史づくりで収集された写真。力強さを感じる素晴らしい写真です（波瀬町・立岩孝秋さん提供）

地域の貴重な財産となり、地域の活力となることを願ってやみません。

この連載の1回目を読み返してみました。そこには「身近な歴史に目を向けていきたい」とあります。新年を迎え、初心に戻り「たはら歴史探訪クラブ」を続けたいと思います。

（増山）

生涯学習課

☎ 23局3531